

豊川地区のお祭り



目次

飯泉の「お祭り」について…… P 1～2
だるま市 ほおずき市 夏祭り 飯泉八幡神社例大祭

桑原の「お祭り」について…… P 3～6
夏祭り（納涼祭） 秋祭り（桑原三島神社例大祭）

成田の「お祭り」について…… P 7～10
秋祭り（成田三島神社例大祭） 夏祭り（盆踊り）

編集後記…………… P 11

飯泉の「お祭り」について

だるま市

飯泉の盛大なお祭りと言え、やはり400年以上の歴史を持つ飯泉山勝福寺(飯泉観音)のだるま市です。関東地方で一番早くだるま市が開かれる事でも有名で、坂東三十三観音(神奈川、埼玉、東京、群馬、栃木、茨城、千葉に点在する全33カ所の観音霊場)の五番札所にもなっています。多いときにはだるま店



30軒、出店200軒が境内に所狭しと並びます。だるまは日本人にとって縁起物です。「七転び八起き」という不屈の根性を表すもので、福をかき集める熊手とともに万人が買い求め賑わいます。

開催時期は毎年12月17日と18日です。お客さんがだるまを買うたびに、手締めの拍手をして厄除けの切火の音とともに「ヨヨヨイ ヨヨヨイ ヨヨヨイヨイ」の掛け声を上げます。



ほおずき市

昭和の時代まで、飯泉では8月の縁日に行われていました。

浅草寺(東京・浅草)が本元らしいのですが、なぜ、ほおずきかという、食用や鑑賞用という話もありますが、薬がなかなか手に入らない時代に子どものかんの虫や大人の癩(原因の分からない疼痛を伴う内臓疾患)によく効くと言われていたようです。ほかにも果実をほおずき人形にした

り、中身を取り除いて口に含んで音を鳴らす、風船のように膨らませるなど子どもの遊びにも使われていました。そしてほおずきがお盆で使う灯籠に似ていることから、お盆の時期を知るためのひとつのアイテムとして用いられていたのかも知れません。



夏祭り

平成 18 年度まで公民館主催で模擬店を出店し、やぐらを組んで盆踊り大会も行われました。当時、子ども会には約 200 名の会員がいたため、祭りの存続は子どもの成長や祭りを次世代に引き継ぐことの重要性を感じ、子ども会が主催となって当てくじや輪投げ等を実施、地区のそ



れぞれの団体がかき氷、綿菓子の販売、消防団がスーパーボールすくいを協力して行ってきました。その後は会員数の減少に伴い、令和元年より自治会と共催することで地域に住む大人も子どもも誰もが一緒になって楽しめる地域のお祭りとして夏休みに賑やかに行われています。

いづみはちまんじんじゃれたいさい 飯泉八幡神社例大祭

戦前、祭典では神輿も山車も地区内を巡行していましたが、太平洋戦争が始まると徴兵や戦死によって担い手が不足して取り止めとなってしまいました。

その後、神輿は樽神輿として復活し、そして昭和 50 年代には有志が先導して寄付金を募り、今の立派な子ども神輿の姿になりました。山車に付き物のお囃子は子どものお祭りである「道祖神」



の行事として小学生男子によって受け継がれてきましたが、行事の取り止めとともに昭和 38 年を最後に飯泉地区から途絶えてしまいました。しかし、昭和 62 年に飯泉青少年育成協議会が設立され、翌年には太鼓部会が併設されて 25 年ぶりに祭囃子が復活しました。その後トラックの荷台に屋台をしつらえ地区内を巡行するようになりました。

また、平成 13 年にはかつての青年達による太鼓会が発足し、山車も修繕されて巡行が始まり現在の姿の例大祭になりました。開催日は毎年 10 月第一日曜日。豊作を祝い子どもの成長を飯泉の皆で喜ぶ。その想いがあるからこそ続いている、続いていく飯泉ならではの祭りなのです。

桑原の「お祭り」について

くわはら まいとし じち かい しゅさい なつまつ みしまじんじゃ しゅさい れいたいさい
桑原地区では毎年、自治会が主催する夏祭り^{なつまつ}と三島神社が主催する秋の例大祭^{れいたいさい}が
おこな ちいき おお みな つた
行われています。いずれのお祭りも地域の多くの皆さんによって伝えられてきた
でんとうぎょうじ
伝統行事です。

夏祭り(納涼祭)^{のうりょうさい}

学校が夏休みに入る7月下旬^{げじゆん}に行われる夏祭
りは、自治会が音頭^{おんど}をとり、傘下^{さんか}の各種団体^{かくしゅだんたい}が
やくわりぶんたん とく
役割分担を決めて取り組む「住民手作りのイベ
ント」で、子どもからお年寄りまで地域の皆が
こうりゆう す きんねん
交流して、夏の夜を楽しく過ごします。近年は
わか せだい ふ すがた めだ
若い世代が増えて、子どもの姿が目立つよう
なり、お年寄りからはこんなに子どもが多い
のかと驚き^{おどろ}の声^{こえ}が寄せられています。

おも ないよう もぎてん かいさい ぼんおど
主な内容は、模擬店^{もぎてん}の開催^{かいさい}、盆踊り^{ぼんおど}、子どもに
よる花火大会^{はなびたいかい}です。会場は桑原三島神社^{けいだい}の境内
をしようし ちゅうおう まわ
使用し、中央にやぐらを立てて周りにテント
がもう じょうない でんとう
設けられます。また、場内には電灯^{でんとう}のケー



ルが張ら
れ、提灯^{ちようちん}が灯され、祭りの雰囲気^{ふんいき}を盛り上げます。
各種団体の役割は、自治会役員^{せいじゆ}と清寿会^{ろうじん}(老人会)
が受付^{らいひん}・来賓^{せったい}の接待^{せったい}・祭りの進行^{せいぎん}などを行い、模
擬店^{ははおや}は、母親クラブ^{ははおや}とボランティア会^{ボランティア}が焼きそ
ば^{しょうぼうだん}・おでん、消防団^{しょうぼうだん}がトウモロコシ^{とうもろこし}・かき氷^{かき氷}、体
育委員^{いくせいかい}が綿菓子^{わたあめ}、育成会^{いくせい}がポップコーン^{ポップコーン}、子ども
会^{こども}が金魚すくい^{きんぎょすくい}・ヨーヨー釣り^{ヨーヨー釣り}・くじ引き^{くじ引き}・飲み
物^{飲み物}などそれぞれのブースを担当^{たんとう}します。また、こ
この祭りの特色として、模擬店^{もぎてん}では原則^{げんそく}として事前
に発券^{はっけん}されたバザー券^{ばざーけん}で品物^{ひんぶつ}と交換^{こうかん}することにな
っていて、気軽^{きがる}に利用^{りよう}することができます。

盆踊りが始まると、夏祭りも最高潮に達します。事前に自治会回覧で呼びかけ、JA女性部の協力のもとで盆踊りの練習を行います。本番では、夏祭りに集まった多くの人々がやぐらの周りで輪になり、やぐらの上でたたく太鼓の響きに合わせていろいろな音頭を踊ります。主役は子どもで、浴衣で参加する子ども大勢います。

夏祭りのフィナーレは、子ども会による花火大会で、盛大に夏祭りを締めくくります。



秋祭り(桑原三島神社例大祭)

三島神社は「村社三嶋社」として発足したものが、法令により「宗教法人三島神社」となったものです。神社の祭典は、例年10月の第一日曜日に行われ、隣組から選ばれた宮世話人が主体となって準備、運営にあたります。秋祭り本番を迎える前に宮世話人、自治会役員、消防団、子ども会、交通安全母の会、生産組合、体育委員、清寿会などが打合せを行い、準備にあたります。秋祭りの1週間前に神社の清掃、のぼり立て、神輿磨きなどに住民の方たちが参加します。また、桑原地区にある事業所を回り、地域の活性化と事業の

繁栄を願って協力をお願いし、三島神社の箱札をお届けします。祭礼の当日は早朝から、宮司さんにより地域の安全・五穀豊穰を祈願して祭式を行います。その後、神輿に御魂入れが行われ、神輿巡行がスタートします。巡行経路は地域の全体をカバーするように計画され、約6キロメートルに及びます。普段は知る事の無い地域全体の様子が分かり、地域の隅々まで身近に感じることができる貴重な機会になります。

巡行は、子ども会が太鼓とお賽銭箱を持って先導し、神輿がその後に続きます。また前後には交通安全の係員が付き、事故が無いように注意して見守ります。途中、20ヶ所ほどの小休止をはさみながら、水分を補給したり、お菓子を食べたり、担ぎ手を交代しながら巡行します。子どもも、お母さん方も、大人の男子も、無理な負担もなく巡行できます。(昔は巡行の最後に酒匂川に入り、神輿を担いで川を下るのが当地特有の慣行でしたが、現在は取り止めています)。



昭和 20 年代の秋祭りの写真を見ると、大人の数が多いことに気がきます。この頃は 20 代から 40 代の男性の多くが消防団員となり、秋祭りの中心的な役割を果たしていました。現在、消防団員は 8 名で、小田原市に合併した昭和 29 年当時の 5 分の 1 ほどに減少し、若い世代のお父さん方が伝統行事に参加し、秋祭りが交流の場の一つとなることが望まれます。また、「令和元年の写真」では子どもの明るい顔が揃っています。将来、故郷を思い出す貴重な体験となることでしょう。



昭和 20 年代の秋祭り



令和元年の秋祭り

成田の「お祭り」について

秋祭り（成田三島神社例大祭）

成田のお祭りで1年の中で最も賑やかなのは何と言っても秋祭りです。

成田三島神社の例大祭は、毎年10月の第1週目の土日の2日間行われます。土曜の夜に前夜祭の宵宮祭が行われ、いよいよ秋祭りの開幕です。そして、日曜は祭りの本番、神輿の巡行が朝早くから夜の宮入りまで続きます。

○神輿渡御

お神輿に神様が乗り、氏子町内を巡行することを神様を敬い神輿渡御と言います。神様が神輿に乗って氏子の家々を回り、人々を災いや厄から守ってもらうのです。従って、平穏で安全に暮らせるよう祈願する神輿巡行は、本来は神聖な神事とも言うべきものであると言えるでしょう。

○御霊入れ

神様は普段は神社社殿の中にいます。この日の神輿渡御のために神様の御霊を神社から神輿に遷す儀式です。宮司さんが社殿の前で祝詞をあげる祝詞奏上など一連の儀式である祭祀を行います。

祭祀の行い方は、神社本庁の制定する「神社祭式行事作法」により定められています。



お祓いをしてお神輿を清めます。



櫛を供えて神様の御霊をお神輿に遷します。

○町内巡行

神輿の巡行には、大勢の担ぎ手が必要です。現在の成田三島神社のお神輿は平成8年に新調されましたが、大変立派なお神輿で重量もあり、交代要員を含めて100人近くの担ぎ手が必要です。成田三島神社に限らず日本全国で神輿の担ぎ手が不足しており、近隣神社の神輿会や友好団体の相互協力で神輿の運行が成り立っているのが現状です。お神輿を担いで気持ちの良い汗をかき親睦を図ることも楽しみの一つです。町内巡行はお神輿が鳥居をくぐって神社から出る宮出しで始まり町内に繰り出します。



巡行の途中では、要所随所で木遣り唄を歌います。木遣り唄は元々大木や岩を大勢で運ぶ時に歌われた仕事歌で、皆が力を合わせるための威勢付けの唄です。お神輿の巡行では、氏子の家々の玄関先や商店の店先までお神輿を突き入れる突っ込みを行い、災いや厄を追い払い家内安全五穀豊穰を届けます。途中途中で休憩をとって体を休め何度も担ぎ手を交代しては神輿を町内くまなく進めます。お神輿と共にお賽銭箱が随行してご祝儀をいただき、ご祝儀は神社の維持費や神社行事の費用の一部にあてられます。お浜巡りでは川辺など海に見立ててお浜を作り神輿を潮によるみそぎを行いお清めをします。そしていよいよ神輿渡御も終盤の宮入りへと向かいます。宮入が完了すると、神様をお神輿から社殿の中に戻す御霊返し(みたまがへし)の式を行って神輿渡御が終了し、お祭りの終わりとなります。



宮出し(神輿お立ち)



木遣り唄



子ども神輿合流



神輿突っ込み



お浜巡り



宮入帰還の渡御
(北條太鼓・えっさホイ踊りコラボ)



宮入り
境内を時計回りに3回練りまわります。



宮入りのクライマックス
威勢よく社殿めがけて神輿を突っ込み。

〇宵宮祭

渡御前日の土曜の夜は宵宮祭が行われます。大人や子ども大勢の人が集まります。演芸会や日本舞踊、ダンス、カラオケ大会そして皆さんお楽しみの抽選会があります。日頃の練習の成果を精一杯披露します。

最高潮は大抽選会。屋台で焼き鳥やラーメンを食べていた人もこの時ばかりは当選番号を見比べて大人も子どもも一喜一憂です。



千代中学校生徒さんのダンス



子ども会で練習しました



抽選当たった人いますかー

〇例大祭の主な準備作業



のぼりの飾付け、櫛・しめ飾り



フォークリフトでのぼり立て



お神輿の飾付け

夏祭り（盆踊り）

毎年恒例の成田地区の夏祭りは7月中旬に八反田公園にて盛大に開催されています。当初は8月のお盆時期に開催されていましたが、酒匂川の花火大会と重なったりしたため見直しされて、現在の7月第3週の土曜日となり、盆踊り中心に地域の各種団体運営の模擬店が出店され、地域住民の方々の親睦の場となっています。大抽選会の頃には祭りも最高潮に盛り上がり、大人も子どもも一緒になって楽しんでいます。



ここで、色々な行事の場となっている八反田公園の歴史について調べてみました。昭和58年12月に小田原市豊川特定土地地区画整理組合の事業が施工され、総事業費は18億4千万円（当時）でした。本事業が実施された成田地区の背景は、去る昭和42年に国道255号線が開通し、また、昭和44年に小田原・厚木道路が完成し、これまでの水田地帯が一変して都市化の様相を呈してきた中、21世紀に向け地域住民の快適な生活基盤が完成するとともに、町並みも素晴らしくなり、大いに発展するものと期待されました。（当時の記念誌より）

現在はもう一つの計画道路、国府津・穴部線（県道717号）の片側2車線の27メートル道路が平成23年5月に開通しています。この区画整理事業、道路や水道整備のほかに八反田公園、中ノ町公園、吉添公園の3つの公園が整備され、豊川保育園や旧豊川支所の改築などが行われ、12年の歳月を費やして平成8年2月にこの事業が完成しました。



区画整理事業前の様子（昭和58年当時）



区画整理事業完成後の様子（平成8年2月）

豊川地域コミュニティ運営協議会第3分科会（令和元年度メンバー）

- 分科会長 小松 秀樹
○副分科会長 小川 泉
○委員 加藤 純一 和田 道明 成田 洋一 栢沼 茂治
山口 登志夫 澤地 光春 大川 晋作 石井 昇
大木 敏正 栗畑 寿一朗 田中 修 池田 直美



編集後記

豊川地域コミュニティ運営協議会第3分科会として制作してまいりました、豊川地区の文化・歴史について各地区の行事や地域内の取り組みを通じて紹介し、地域内の情報共有、コミュニティの形成とともに誰にでも気軽に参加してもらえらるためのツール、冊子の第3作目になります。

今回は、今までの冊子を見ていただいてからのまつりです。意味合いこそ祀り・祭り・奉り・政りと色々ありますが、豊川地区のそれぞれは全てを集約し、季節を感じ、自然と共に生き、神様や御先祖様、先人を敬い、その気持ちを先に繋げていく、そんな気持ちが今もそしてこれからも続いていく大切なものになります。これを読んで飯泉・桑原・成田のまつりにどんどん参加していただければと思います。

豊川地域コミュニティ運営協議会 第3分科会長 小松 秀樹

豊川地域コミュニティ運営協議会第3分科会(文化歴史・教育)作成の冊子

- 「道祖神とどんど焼き」(平成29年度)
- 「温故知新～豊川物語」(平成30年度)
- 「豊川地区のお祭り」(令和元年度)

既刊誌は小田原市自治会総連合のホームページを御覧ください。
<https://odawara-jichisoren.net/section/toyokawa/>

